

2. 環境影響評価要因の抽出と環境影響評価項目の選定

2-1 環境影響評価要因の抽出

2-1-1 環境影響評価の対象

2020年東京大会は、オリンピックスタジアムを中心とする半径8km圏内に、射撃・近代五種・ゴルフを除くすべての競技の決勝の会場、選手村、IBC/MPCを配置することによって、施設建設による影響、大会の運営に係る影響、開催後の影響が広範囲に拡散することを回避するよう計画している。

本初期段階環境影響評価においては、2020年東京大会の中心となる会場や競技並びに全体としての環境影響を対象として検討を行ったものである。

(1) 会場・競技による影響

1) 対象会場

対象とする会場の位置、諸元等は、「1 事業特性の把握 ～大会計画の概要～」において整理したとおりであるが、環境への影響項目やその影響の程度の観点から考えると、建設内容（恒久・仮設の別や規模、期間など）及び立地特性により環境影響評価において検討すべき内容が異なると考えられる。

対象会場について、その建設内容及び立地特性により会場を分類すると表2-1(p2-2)に示すとおりとなり、建設内容では5類型、立地特性では3類型に分類できる。

環境影響要因の検討や環境影響評価項目の選定に当たっては、この会場ごとの特性を踏まえて検討を行った。

表 2-1 建設内容による会場の類型

類型	会場名	水辺に隣接	公園内立地
A 新設恒久会場	有明アリーナ	○	
	大井ホッケー競技場		○
	海の森水上競技場	○	
	若洲オリンピックマリーナ	○	○
	葛西臨海公園	○	○
	夢の島ユース・プラザ・アリーナA・B	○	○
	夢の島公園	○	○
	オリンピックアクアティクスセンター	○	○
	ウォーターポロアリーナ	○	○
オリンピック選手村	○	○	
B 新設恒久会場(計画)	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)		○
	武蔵の森総合スポーツ施設		
C 仮設	皇居外苑	○	
	有明BMXコース	○	
	有明ペロドローム	○	
	有明体操競技場	○	○
	お台場海浜公園	○	○
	潮風公園	○	○
	海の森クロスカントリーコース		
	海の森マウンテンバイクコース		
	武蔵の森公園	○	○
	陸上自衛隊朝霞訓練場		
	D 既存会場 (改修あり)	日本武道館	○
有明テニスの森			○
IBC/MPC(東京ビックサイト)			
E 既存会場 (改修なし)	東京体育館		○
	国立代々木競技場		
	東京国際フォーラム		
	国技館		
	東京ビッグサイト・ホールA・B		
	夢の島競技場	○	○
	東京スタジアム		
	霞ヶ関カンツリー倶楽部	○	○
	札幌ドーム		
	宮城スタジアム		○
埼玉スタジアム2002		○	
横浜国際総合競技場		○	

注1) 表中網掛け部は、類型A, B, D, Eの会場で近隣に生活環境場がある場所。

2) 「C 仮設」は、全ての建設物が仮設である会場であり、C以外の会場においても、仮設施設を設置する場合がある。

2) 対象競技

本環境影響評価においては、表 2-2 に示す屋外陸域の敷地外及び屋外水域で実施される競技を対象競技とする。

屋内競技及び屋外陸域の敷地内で行われる競技については、個別会場を対象とする調査に含めて検討した。

表 2-2 環境影響評価の対象とする屋外競技

競技No.	競技		類型	
	オリンピック	パラリンピック	陸域	敷地外
1	陸上競技 (マラソン)	陸上競技 (マラソン)		
2	陸上競技 (競歩)	—		
3	自転車競技(ロード・レース)	自転車競技(ロード・レース)		
4	トライアスロン	パラトライアスロン	水域	
5	水泳 (マラソン 10km)	—		
6	カヌー(スプリント)	パラカヌー		
7	カヌー(スラローム)			
8	ボート	ボート		
9	セーリング	セーリング		

(2) 全体の影響

2020 年東京大会の及ぼす影響を、個別の会場、競技では評価困難な広域的な視点 (交通インフラ、廃棄物マネジメントなど) や社会経済的な視点により全体計画 (8 km 圏又は 8 km 圏に係る特別区) についても評価を行った。

(3) 対象時点

本環境影響評価においては、2020 年東京大会の開催前、開催中及び開催後の 3 時点における影響を対象とした。

それぞれの時点において想定した影響の種類は、表 2-3 に示すとおりである。

表 2-3 予測時点と影響の種類

予測時点	影響の種類	備考
開催前	工事による影響	新設恒久会場、新設恒久会場(計画中)、仮施設設のみの会場、既存会場(改修あり)、既存会場(改修なし)、における工事
	招致・PR 活動による影響	主として社会・経済項目に関係
開催中	会場の存在による影響	開催後も併せて取り扱う
	競技の実施による影響	大会期間中の利用を考慮
開催後	工事による影響	仮設の撤去工事
	後利用による影響	後利用(大会後の利用)を考慮

2-1-2 環境影響要因の抽出

2020年東京大会開催に伴う影響要因は、会場に関する存在影響、大会期間中の影響、大会期間後の影響の3つの区分について、潜在マイナス影響、プラス影響の可能性、東京に関する地域性を考慮し、表2-4に示すとおり抽出した。

表 2-4(1) 環境影響要因の抽出

区分	影響要因	潜在マイナス影響	プラス影響の可能性
会場系存在影響			
会場整備に関する共通事項 (工事に関連する事項)	土地の造成 切土・盛土・埋立	・ 地形変化（生態系の基盤の改変）	・ 地形変化（可住地面積の拡大等）
	残土等の土捨て	・ 土壌汚染	
	基礎工事（掘削等）	・ 地下水変化	
	資材機材等の運搬 建設機械の稼働	・ 大気汚染 ・ 騒音・振動の発生	
	資材等の集積	・ 一時的に空間を占有	
	資材等の使用	・ 建設副産物の発生	・ 国産材の使用による林業の活性化
	樹木伐採、植生改変	・ 生態系変化 ・ 生物多様性劣化	
植栽、緑化	・ 周辺生態系への影響	・ 緑量の増加 ・ 生態系へ貢献（再生、創出） ・ 美しく潤いのある景観の創出 ・ ヒートアイランド現象の緩和	
会場の新設	土地の占有（土地利用変更）	・ 土地利用影響（農地減少・住居移転）	・ 新たな経済活動創出
	土地の被覆（舗装工事・コンクリート工事等）	・ 水循環の劣化 ・ 洪水流出増大 ・ ヒートアイランド悪化	
	構造物出現（地上部）	・ 景観影響 ・ 電波障害 ・ 風害等微気象変化	・ 新たな景観形成 ・ 人が集い、にぎわいあふれる交流空間の形成
	構造物出現（地下部）	・ 地下水変化	
会場の改修	既存施設の撤去	・ 建設副産物の発生	・ 再利用 ・ 再資源化
	土地の被覆（舗装工事・コンクリート工事等）		・ 保水性舗装への改修等によるマイナス影響の軽減
	建物出現（地上部）	・ 景観影響 ・ 電波障害 ・ 風害等微気候変化	・ 新たな景観形成 ・ 人が集い、にぎわいあふれる交流空間の形成 ・ 改修によるマイナス影響の軽減
	構造物出現（地下部）	・ 地下水変化	

表 2-4(2) 環境影響要因の抽出

区分	影響要因	潜在マイナス影響	プラス影響の可能性
会場系存在影響			
会場の仮設	土地の被覆(舗装工事・コンクリート工事等)	<ul style="list-style-type: none"> 水循環の劣化 洪水流出増大 ヒートアイランド悪化 	
	建物出現(地上部)	<ul style="list-style-type: none"> 景観影響 電波障害 風害等微気候変化(一時的影響) 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな景観形成 人が集い、にぎわいあふれる交流空間の形成
開催中の影響			
大会の運営	エネルギーの消費(交通、通信、空調、照明等)	<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガスの排出 電力不足 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ改修の効果発揮
	資源の利用(水)		
	一般廃棄物の発生		
	雑排水・し尿の発生	—	—
	人の集中	<ul style="list-style-type: none"> 交通混雑による大気汚染、交通事故等 	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動の活発化 にぎわいの創出
開催後の影響			
の仮設物等	仮設物等の撤去	<ul style="list-style-type: none"> 建設副産物の発生 	<ul style="list-style-type: none"> 再利用 再資源化
跡地利用	オープンスペースとしての利用		<ul style="list-style-type: none"> 都市環境インフラの拡充
	生物生息・生育空間としての利用		<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性の保全創出
持続的利用の恒久会場の	住宅等としての利用		<ul style="list-style-type: none"> 新しいまちづくりに寄与
	スポーツ施設としての利用	<ul style="list-style-type: none"> 施設規模が過剰な場合の維持コスト 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ振興に寄与

2-2 環境影響評価項目の選定

2-2-1 環境影響評価項目選定の考え方

環境影響評価項目の設定にあたっては、「2020年東京オリンピック・パラリンピック環境アセスメント指針」（以下、「指針」という）に基づき、東京都環境影響評価条例で対象としている環境項目を基本とし、持続可能性の観点から「資源の有効利用」を加えた。

また、一般的にオリンピック・パラリンピックの実施による社会経済影響として懸念される事項とオリンピック・パラリンピックを契機に一般的に社会経済の発展に寄与する事項に、東京の実態を考慮し、土地利用、社会活動、参加・協働、安全・衛生・安心、交通、経済を含めて検討を行った。

環境影響評価項目設定の考え方は、表 2-5 (p2-7～2-10) に示すとおりである。

表 2-5(1) 環境影響評価項目の考え方

項目			項目の考え方	備考
大項目	中項目	小項目		
環境項目			オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、「オリンピック」という)による東京の環境へのネガティブな影響を最小化し、東京の環境を向上するための項目、地域及び地球環境の持続性を維持し高めることを目的とした項目。	環境影響評価法及び都アセス条例が対象としている項目に、環境の持続可能な利用の観点から資源利用の項目を追加。
	主要環境		大気、水、土壌等環境の自然的構成要素の汚染が人の健康(都民、来訪者、オリンピックに参加するアスリート等)、生活環境及び自然環境に悪影響を及ぼさない水準であることを確実にすることを目的とした項目。	想定されるオリンピックの影響要因及び会場等が予定される地域の特性から、地盤は対象としない。悪臭、騒音・振動は、地域特性等から生活環境に対する影響のみと考え、生活環境で取り扱う。
		大気	地域の特性を勘案し、自動車等による大気汚染等の程度を予測する。	
		水質	地域の特性、オリンピック特性を勘案し、公共用水域(特に東京湾)の汚濁等の程度、水域を利用するアスリートへの影響を予測する。	
		土壌	地域の特性を勘案し、建設工事等に伴う汚染土壌の拡散等による影響を予測する。	
	生態系		都市における生物多様性、健全な生態系の維持、再生を目的とした項目。	都アセス条例の自然環境に係る項目。海外へのアピールの面から「生態系」とする。
		生物の生育・生息基盤	地形、地質等からなる生態系を支える無機環境基盤への影響を予測する。	都アセス条例の地形・地質の項目。ただし、地形等の安定性は含まず、生物の成育基盤という視点から捉える。
		水循環	自然の水循環の維持・向上の観点から、雨水の地下浸透への影響を予測する。	
		生物・生態系	都市の生物、生態系の維持・再生の観点から、保全を要する重要な動植物及び生物多様性への影響を予測する。陸域及び東京湾を対象とする。	
		緑	都市の生物多様性保全の他に、ヒートアイランド対策、景観その他多様な機能を含めて、都市環境の保全、再生に資する緑の量への影響(伐採等による減少と緑化による増加)を予測する。	オリンピックを機に緑と水の都市を再生することを目指していることから、都アセス条例では生物・生態系の中に含まれる「緑」を特に項目として独立させる。

表 2-5(2) 環境影響評価項目の考え方

項目			項目の考え方	備考
大項目	中項目	小項目		
環境項目	生活環境		地域住民の生活環境への阻害を極力生じさせないことを目的とした項目。	都アセス条例の公害項目のうち影響が近隣住民に限られるものと、生活環境に該当すると思われる項目。ただし、事業の特性より、悪臭、風環境に対する影響は生じないため、対象外。
		騒音	地域特性及びオリンピックの特性から、主に自動車交通の増加による騒音影響を予測する。ただし、工事が大規模な対象にあつては、工事車両及び工事騒音の影響についても予測する。	振動は、初期段階では騒音に代表させる。残留影響があり実施段階で対象とする場合には振動も独立した項目として取り扱う。
		日影	建築物等による周辺地域への日照の阻害の程度を予測する。	
	アムニティ・文化		都市特有の問題を解決し、快適で風格ある都市環境を形成することを目的とした項目。	都アセス条例の景観、史跡・文化財、自然との触れ合い活動の場に、都市特有の問題であるヒートアイランド現象の緩和(歩行者空間)を加える。
		景観	現在の景観への阻害の程度と、美しく風格ある景観形成への貢献の程度(主に目に見える緑の量と電柱・広告物等の現状の景観阻害要因に着目)を予測する。	
		自然との触れ合い活動の場	都市における自然との触れ合い活動の場(公園、緑地、水辺等)へのハード面での影響(改変・阻害や新たな創出)の程度と、自然との触れ合い活動内容に与えるソフト面での影響を予測する。	事業特性から、特に公園の機能への影響、機能回復・代替に留意。
		歩行者空間の快適性	都市特有の課題であるヒートアイランド現象への影響(激化、緩和)を、歩行者空間やアスリートが利用する空間に着目して予測する。	
		史跡・文化財	東京を特徴づける文化財庭園や近代建築物等の史跡・文化財等(指定されているものに限定しない)の保護・保全及び活用への影響の程度(直接改変に限定せず、周辺環境影響含む)を予測する。	立地特性から、文化財庭園、前回オリンピックのレガシーに着目。
	資源・廃棄物		循環型社会の形成を目指して、持続可能な資源利用を促進するための項目。	IOC等の要求、動向を踏まえて、都アセス条例にはない項目も追加。
		水利用	水の効率的利用への取組・貢献の程度を、雨水・再生水利用に着目して予測する。	
廃棄物		廃棄物の削減及び適正処理の推進(焼却及び埋立の削減)への取組・貢献の程度を予測する。		
エコマテリアル(脱石油)		資源の循環利用を促進するため、再生資源等エコマテリアルの活用程度、これによる資源保全効果を予測する。	特に都が関与しているエコセメント等に着目	

表 2-5(3) 環境影響評価項目の考え方

項目			項目の考え方	備考
大項目	中項目	小項目		
環境項目	温室効果ガス		地球温暖化防止を進め、低炭素社会を実現するため、温室効果ガスの削減の程度を予測する。	
		温室効果ガス	温室効果ガス削減の程度、取組の効果の程度を、二酸化炭素に着目して予測する。	再生可能エネルギーの導入、自動車の燃料対策等の効果は、温室効果ガスの削減で反映。
		エネルギー	温室効果ガスの主要発生要因であるエネルギー使用について、削減の程度、取組の効果の程度を予測する。	二酸化炭素削減のもととなる、エネルギー使用量の抑制策を評価。
社会・経済項目			環境面でのサステナビリティ向上の基盤となる、社会経済面でのサステナビリティ向上を目的とする項目。	都アセス条例にはない項目だが、I O C の質問事項に対応して選定。
	土地利用		地域住民の生活及び経済活動の基盤である土地利用への影響を回避し、土地の有効活用の促進を目的とする。	
		土地利用	自然地の転換等現状の土地利用への影響と、未利用地の活用等土地の有効利用の程度を予測する。	
		地域分断	施設整備等に伴う、生活動線（特に歩行者動線）の分断の程度を予測する。	
		移転	施設整備等に伴う、住宅、店舗等の移転の程度を予測する。	
	社会活動		オリンピックムーブメントの3本柱のうちのスポーツ活動と文化活動の活性化を目的とした項目。	
		スポーツ活動	スポーツ活動の場の確保及びスポーツ活動の普及促進に及ぼす影響（阻害及び貢献）の程度を予測する。	特に、多様な世代が参加する地域スポーツに着目。
		文化活動	文化活動の場の確保及び文化活動の普及促進に及ぼす影響（阻害及び貢献）の程度を予測する。	音楽、演劇、地域の歴史・文化学習、日本文化の発信等、オリンピックを通じて実現可能な活動に着目。
	参加・協働		地域の環境を改善し、持続可能なものとする上でかかせない地域力の向上を目的とした項目。	
		ボランティア	少子高齢化社会、地域自治・地域再生を勘案し、オリンピック関連のボランティア活動の実施及び参加状況から、東京のボランティア文化育成への貢献の程度を予測する。	特に、社会参加や教育という観点に着目。
		コミュニティ	都市における地域コミュニティ再生の観点から、地域のコミュニティ単位でのオリンピック活動へ参画の程度を予測する。	
		環境への意識	持続可能な地域社会づくりの基盤として、オリンピックを通じた環境意識向上の取組、貢献の程度を予測する。	

表 2-5(4) 環境影響評価項目の考え方

項目			項目の考え方	備考
大項目	中項目	小項目		
社会・経済項目	安全・衛生・安心		選手等オリンピック関係者や観客にとって、会場等の災害からの安全性や安全・安心な移動の確保、飲料水等の安全性を目的とする項目。併せて、都民の安全確保にも貢献する。	完全に人的側面である防犯については対象としない。
		安全	オリンピックの会場等について、危険施設（爆発物等）からの安全性について予測。また、すべての人にとっての安全な移動（バリアフリー）の確保の程度や、停電回避のための供給電力の安定度を予測する。	
		衛生	飲料水の水質や食品の残留物質など、飲食についての安全性を予測する。	
		消防・防災	オリンピックの会場等について、火災、地震・津波からの安全性（耐震性）の程度について予測する。	
		交通		
		交通渋滞	交通渋滞の程度を予測する。自動車交通の増加による局所的影響を予測するとともに、道路等の基盤整備や交通マネジメントの実施等による交通流の改善効果を含めた8 km圏全体の渋滞について予測する。	交通渋滞に関する予測結果(その前提条件を含む)は、大気汚染、騒音等の予測の条件ともなる。
		公共交通へのアクセシビリティ	オリンピックの会場等までのアクセシビリティについて予測する。	
		交通安全	全ての人にとっての安全な移動（交通安全）の確保の程度を予測する。	
		経済	オリンピックによる適正な経済効果の発現を確実なものとするを目的とした項目。	
		経済波及	オリンピックによる経済波及効果の程度及びその確実性の程度を予測する。	波及効果を確実なものとするための取組等に注目する。
		雇用	オリンピックによる雇用創出の程度及びその社会的効果の程度を予測する。	高齢者雇用やニート対策等にも留意した評価を行う。
		事業採算性	オリンピックの会場整備等について、投入資金額、将来の利用及びそれによる回収可能性、維持管理に関する地元自治体等の負担等に注目し、事業の採算性について予測する。	

2-2-2 環境影響評価項目の選定

環境影響評価項目は、「2-2-1 環境影響評価項目選定の考え方」において整理した考え方に基づいて、表 2-6 に示す環境項目及び社会・経済項目を選定した。

また、環境影響評価の対象となる会場、競技、全体について、対応する環境影響評価項目との関係を整理すると、表 2-7～表 2-9(p2-12～2-17)に示すとおりとなり、本環境影響評価においてはこれらの項目を対象に予測評価を行った。

表 2-6 環境影響評価項目

大項目	中項目	小項目
環境項目	主要環境	大気、水質、土壌
	生態系	生物の生育・生息基盤、水循環、生物・生態系、緑
	生活環境	騒音、日影
	アメニティ・文化	景観、自然との触れ合い活動の場、歩行者空間の快適性、史跡・文化財
	資源・廃棄物	水利用、廃棄物、エコマテリアル
	温室効果ガス	温室効果ガス、エネルギー
社会・経済項目	土地利用	土地利用、地域分断、移転
	社会活動	スポーツ活動、文化活動
	参加・協働	ボランティア、コミュニティ、環境への意識
	安全・衛生・安心	安全、衛生、消防・防災
	交通	交通渋滞、公共交通へのアクセシビリティ、交通安全
	経済	経済波及、雇用、事業採算性

表 2-7(1) 環境影響評価項目（個別会場）A新設恒久会場

対象会場：有明アリーナ、大井ホッケー競技場、海の森水上競技場、若洲オリンピックマリーナ、葛西臨海公園、夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B、夢の島公園、オリンピックアクアティクスセンター、ウォーターポロアリーナ、オリンピック選手村

大項目	中項目	小項目	評価の指標	開催前		開催中		開催後	
				工事影響	招致等の影響	存在影響	競技の影響	工事影響	後利用の影響
環境項目	主要環境	大気	汚染物質(NO2、SPM)の排出量						
		水質	汚濁負荷(COD、T-N、T-P、BOD、SS等)の排出量						
		土壌	土壌汚染物質の拡散の可能性						
	生態系	生物の生育・生息基盤	生物の生育・生息基盤の状況						
		水循環	雨水の地下浸透能力の変化						
		生物・生態系	周辺の生物の生育・生息環境の連続性						
			重要な生物・生態系 生物相の豊かさ(鳥類相で代表)						
		緑	緑被面積(屋上含む) 緑化の状況						
	生活環境	騒音	環境・交通騒音レベル						
		日影	日照の阻害の有無(阻害を受ける住戸等の有無)						
	アメニティ・文化	景観	緑視率						
			優れた眺望又は景観の阻害						
		自然との触れ合い活動の場	自然との触れ合い活動の場の変化						
			自然との触れ合い活動の変化						
		歩行者空間の快適性 史跡・文化財	街路樹等緑陰の充実(緑陰面積) 史跡・文化財の保護・保全						
	資源・廃棄物	水利用	上水利用量の削減						
		廃棄物	廃棄物発生量の減量化(抑制及びリユース率)						
			廃棄物の有効利用(リサイクル率)						
	エコマテリアル	エコマテリアルの使用							
	温室効果ガス	温室効果ガス	温室効果ガスの削減量						
エネルギー		エネルギー使用量							
社会・経済項目	土地利用	土地利用	土地の転用						
			土地の有効利用						
		地域分断	生活移動動線の分断又は進展						
		移転	移転						
	交通	公共交通へのアクセシビリティ	アクセス性						
		交通安全	交通安全						
	経済	事業採算性	施設整備費						
			運営経費						

■：非該当項目のため検討対象外

表 2-7(2)

環境影響評価項目（個別会場）B既設恒久会場（計画中）

対象会場：オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）、武蔵野の森総合スポーツ施設

大項目	中項目	小項目	評価の指標	開催前		開催中		開催後	
				工事影響	招致等の影響	存在影響	競技の影響	工事影響	後利用の影響
環境項目	主要環境	大気	汚染物質 (NO ₂ 、SPM) の排出量						
		水質	汚濁負荷 (COD、T-N、T-P、BOD、SS 等) の排出量						
		土壌	土壌汚染物質の拡散の可能性						
	生態系	生物の生育・生息基盤	生物の生育・生息基盤の状況						
		水循環	雨水の地下浸透能力の変化						
		生物・生態系	周辺の生物の生育・生息環境の連続性						
			重要な生物・生態系 生物相の豊かさ（鳥類相で代表）						
		緑	緑被面積（屋上含む） 緑化の状況						
	生活環境	騒音	環境・交通騒音レベル						
		日影	日照の障害の有無（障害を受ける住戸等の有無）						
	アメニティ・文化	景観	緑視率						
			優れた眺望又は景観の障害						
		自然との触れ合い活動の場	自然との触れ合い活動の場の変化						
			自然との触れ合い活動の変化						
		歩行者空間の快適性	街路樹等緑陰の充実（緑陰面積）						
	史跡・文化財	史跡・文化財の保護・保全							
	資源・廃棄物	水利用	上水利用量の削減						
		廃棄物	廃棄物発生量の減量化（抑制及びリユース率）						
			廃棄物の有効利用（リサイクル率）						
	エコマテリアル	エコマテリアルの使用							
	温室効果ガス	温室効果ガス	温室効果ガスの削減量						
エネルギー		エネルギー使用量							
社会・経済項目	土地利用	土地利用	土地の転用						
			土地の有効利用						
		地域分断 移転	生活移動動線の分断又は進展 移転						
	交通	公共交通へのアクセシビリティ	アクセス性						
		交通安全	交通安全						
	経済	事業採算性	施設整備費						
			運営経費						

■：非該当項目のため検討対象外

表 2-7(3) 環境影響評価項目（個別会場）C仮設

対象会場：皇居外苑、有明BMXコース、有明ベロドローム、有明体操競技場、お台場海浜公園、潮風公園、海の森クロスカントリーコース、海の森マウンテンバイクコース、武蔵野の森公園、陸上自衛隊朝霞訓練場

大項目	中項目	小項目	評価の指標	開催前		開催中		開催後	
				工事影響	招致等の影響	存在影響	競技の影響	工事影響	後利用の影響
環境項目	主要環境	大気	汚染物質 (NO2、SPM) の排出量						
		水質	汚濁負荷 (COD、T-N、T-P、BOD、SS 等) の排出量						
		土壌	土壌汚染物質の拡散の可能性						
	生態系	生物の生育・生息基盤	生物の生育・生息基盤の状況						
		水循環	雨水の地下浸透能力の変化						
		生物・生態系	周辺の生物の生育・生息環境の連続性						
			重要な生物・生態系						
			生物相の豊かさ（鳥類相で代表）						
	緑	緑被面積（屋上含む）							
			緑化の状況						
	生活環境	騒音	環境・交通騒音レベル						
		日影	日照の障害の有無（障害を受ける住戸等の有無）						
	アメニティ・文化	景観	緑視率						
			優れた眺望又は景観の障害						
		自然との触れ合い活動の場	自然との触れ合い活動の場の変化						
			自然との触れ合い活動の変化						
		歩行者空間の快適性	街路樹等緑陰の充実（緑陰面積）						
	史跡・文化財	史跡・文化財の保護・保全							
	資源・廃棄物	水利用	上水利用量の削減						
		廃棄物	廃棄物発生量の減量化（抑制及びリユース率）						
			廃棄物の有効利用（リサイクル率）						
エコマテリアル	エコマテリアルの使用								
温室効果ガス	温室効果ガス	温室効果ガスの削減量							
	エネルギー	エネルギー使用量							
社会・経済項目	土地利用	土地利用	土地の転用						
			土地の有効利用						
		地域分断	生活移動動線の分断又は進展						
	移転	移転							
	交通	公共交通へのアクセシビリティ	アクセス性						
		交通安全	交通安全						
	経済	事業採算性	施設整備費						
			運営経費						

■：非該当項目のため検討対象外

表 2-7(4) 環境影響評価項目（個別会場）D既存会場（改修あり）
対象会場：日本武道館、有明テニスの森、東京ビックサイト（IBC/MPC）

大項目	中項目	小項目	評価の指標	開催前		開催中		開催後	
				工事影響	招致等の影響	存在影響	競技の影響	工事影響	後利用の影響
環境項目	主要環境	大気	汚染物質(NO2、SPM)の排出量						
		水質	汚濁負荷(COD、T-N、T-P、BOD、SS等)の排出量						
		土壌	土壌汚染物質の拡散の可能性						
	生態系	生物の生育・生息基盤	生物の生育・生息基盤の状況						
			水循環	雨水の地下浸透能力の変化					
		生物・生態系	周辺の生物の生育・生息環境の連続性						
			重要な生物・生態系 生物相の豊かさ（鳥類相で代表）						
		緑	緑被面積（屋上含む）						
			緑化の状況						
	生活環境	騒音	環境・交通騒音レベル						
		日影	日照の阻害の有無（阻害を受ける住戸等の有無）						
	アメニティ・文化	景観	緑視率						
			優れた眺望又は景観の阻害						
		自然との触れ合い活動の場	自然との触れ合い活動の場の変化						
			自然との触れ合い活動の変化						
		歩行者空間の快適性	街路樹等緑陰の充実（緑陰面積）						
	史跡・文化財	史跡・文化財の保護・保全							
	資源・廃棄物	水利用	上水利用量の削減						
		廃棄物	廃棄物発生量の減量化（抑制及びリユース率）						
			廃棄物の有効利用（リサイクル率）						
エコマテリアル	エコマテリアルの使用								
温室効果ガス	温室効果ガス	温室効果ガスの削減量							
	エネルギー	エネルギー使用量							
社会・経済項目	土地利用	土地利用	土地の転用						
			土地の有効利用						
		地域分断	生活移動動線の分断又は進展						
	移転	移転							
	交通	公共交通へのアクセシビリティ	アクセス性						
		交通安全	交通安全						
	経済	事業採算性	施設整備費						
			運営経費						

■：非該当項目のため検討対象外

表 2-7(5)

環境影響評価項目（個別会場）E 既存会場（改修なし）

対象会場：東京体育館、国立代々木競技場、東京国際フォーラム、国技館、東京ビッグサイト・ホールA、B、
夢の島競技場、東京スタジアム、霞ヶ関カンツリー倶楽部、札幌ドーム、宮城スタジアム、埼玉スタ
ジアム 2002、横浜国際総合競技場

大項目	中項目	小項目	評価の指標	開催前		開催中		開催後	
				工事影響	招致等の影響	存在影響	競技の影響	工事影響	後利用の影響
環境項目	主要環境	大気	汚染物質 (NO ₂ 、SPM) の排出量						
		水質	汚濁負荷 (COD、T-N、T-P、BOD、SS 等) の排出量						
		土壌	土壌汚染物質の拡散の可能性						
	生態系	生物の生育・生息基盤	生物の生育・生息基盤の状況						
			水循環	雨水の地下浸透能力の変化					
		生物・生態系	周辺の生物の生育・生息環境の連続性						
			重要な生物・生態系 生物相の豊かさ（鳥類相で代表）						
		緑	緑被面積（屋上含む）						
			緑化の状況						
		生活環境	騒音	環境・交通騒音レベル					
	日影		日照の阻害の有無（阻害を受ける住戸等の有無）						
	アメニティ・文化	景観	緑視率						
			優れた眺望又は景観の阻害						
		自然との触れ合い活動の場	自然との触れ合い活動の場の変化						
			自然との触れ合い活動の変化						
		歩行者空間の快適性	街路樹等緑陰の充実（緑陰面積）						
	史跡・文化財	史跡・文化財の保護・保全							
	資源・廃棄物	水利用	上水利用量の削減						
		廃棄物	廃棄物発生量の減量化（抑制及びリユース率）						
			廃棄物の有効利用（リサイクル率）						
	エコマテリアル	エコマテリアルの使用							
温室効果ガス	温室効果ガス	温室効果ガスの削減量							
	エネルギー	エネルギー使用量							
社会・経済項目	土地利用	土地利用	土地の転用						
			土地の有効利用						
		地域分断	生活移動動線の分断又は進展						
	交通	公共交通へのアクセシビリティ	移転						
			アクセシビリティ						
	交通安全	交通安全							
		事業採算性	施設整備費						
運営経費									

■：非該当項目のため検討対象外

表 2-8 初期段階アセスの評価項目（屋外競技）

陸域：陸上競技（マラソン、競歩）、自転車競技（ロードレース）、トライアスロン/パラトライアスロン
 水域：トライアスロン/パラトライアスロン、水泳（マラソン 10km）、カヌー/パラカヌー、ボート、セーリング

大項目	中項目	小項目	評価の指標	開催前		開催中		開催後	
				工事影響	招致等の影響	存在影響	競技の影響	工事影響	後利用の影響
環境項目	主要環境	大気	汚染物質 (NO ₂ , SPM) の排出量						
			NO ₂ , SPM 濃度、放射性物質						
		水質	汚濁負荷 (COD, T-N, T-P, BOD, SS 等) の排出量						
			ふん便性大腸菌群数, 油膜の有無, COD の濃度, 透明度 (水浴場水質判定基準項目)						
	生活環境	騒音	環境・交通騒音レベル						
	アムニティ・文化	歩行者空間の快適性	地面付近の気温						
	資源・廃棄物	廃棄物	廃棄物発生量の減量化 (抑制及びリユース率)						
			廃棄物の有効利用 (リサイクル率)						
	温室効果ガス	温室効果ガス	温室効果ガスの削減量						
		エネルギー	エネルギー使用量						
	交通	交通渋滞	ボトルネックの解消又は継続						
	経済	事業採算性	運営経費						

■ : 非該当項目のため検討対象外

表 2-9 初期段階アセスの評価項目（全体計画）

大項目	中項目	小項目	評価の指標	開催前		開催中		開催後	
				工事影響	招致等の影響	存在影響	競技の影響	工事影響	後利用の影響
環境項目	主要環境	大気	N02、SPM 濃度						
	生態系	生物・生態系	周辺の生物の生育・生息環境の連続性						
		緑	オリンピック施設の総緑被面積（屋上、壁面含む）の増減の総計（改変、創出面積）						
	関連施策を含む対策による 8km 圏内における緑の創出（創出面積）								
	資源・廃棄物	水利用	上水利用量の削減						
		廃棄物	廃棄物発生量の減量化（抑制及びリユース率）						
			廃棄物の有効利用（リサイクル率）						
	エコマテリアル	エコマテリアルの使用							
	温室効果ガス	温室効果ガス	温室効果ガスの削減量						
	社会・経済項目	社会活動	スポーツ活動	国際レベルのスポーツ施設の充足度					
スポーツ活動への貢献									
文化活動			施設密度						
			文化の発信（国際貢献） 情報のバリアフリー化						
参加・協働		ボランティア	ボランティア参加機会						
		コミュニティ	コミュニティ形成への寄与						
			企業のコミュニティ参加						
環境への意識		環境への関心・意識の変化							
安全・衛生・安心		安全	危険施設の影響						
			バリアフリー（移動の安全）						
		衛生	電力の安定供給						
			飲料水水質等						
			耐震性						
消防・防災		津波対策							
		防火性							
交通		交通渋滞	ボトルネックの解消又は継続						
		公共交通へのアクセシビリティ	アクセス性						
		交通安全	交通安全						
経済		経済波及	経済効果						
			新規ビジネスの創出						
	雇用	新たな観光需要の創出 雇用							

■：非該当項目のため検討対象外